

Alma Mater SAPIENTIA

英知大学同窓会会報

Vol. 10 Oct. 10. 1998

発行：英知大学同窓会
〒661-8530
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
発行責任者：野村裕
編集：英知大学同窓会

- 開学35周年を迎えて 1
- 学長からのご挨拶 ●六甲セミナーハウス開設 2
- 事務局移管のお知らせ ●同窓会に思う 3
- 同窓会のあり方 ●同窓会と国際言語教育センター 4
- 会費徴収システムについて ●香港園リポート 5
- 関東支部だより ●和歌山グループ講演会開催 6
- 同窓会功労賞受賞者の声 ●留学生からの手紙 7
- 開学35周年とホームカミングデイ ●スクルス先生退官を祝う会 8

開学35周年を迎えて

会長 野村裕

会員および準会員の皆さまには、お変わりなく元気で活躍のことと幸いです。私たち、役員一同も、開学30年の節目より前任者の方々から引き継いでから、はや5年を数えることになりました。今回、開学35周年の節目にも立ち会わせていただくことになり、光栄の至りと感謝いたしております。これまでこれでしたのも、会員各位のご支援とご協力の賜物と深く感謝しております。

また、この会報も、担当役員の方々と会員の皆さまのご支援で続けてこれたことを思うと、感慨深いものがあります。

開学35周年記念として、大学ではシンボルトワー「サピエンチア・タワー」が完成し、そのお披露目式が9月10日に開催されました。また、同窓会としても、開学35周年記念ホームカミングパーティーを11月3日に計画しております。どんな変わって行く大学のキャンパスを一度訪ねていただき、ぜひともご自分の目で確認ください。当日は、多数のご出席を心よりお待ちしております。

さて、突然ではありますが、同窓会の事務局が、就職部就職課から、大学の都合により総務部へ移行することに



なりました。

役員一同、仕事をしながらの活動では、いろいろな制約を受けます。我々が独自で事務局員を雇い、それを管理・運営できるまでに会を発展させたい。これが我々の願いでした。前任者より会をあげた当初は我々にそこまでの力はありませんでした。それが可能となるまでの間をと、事務局運営のお手伝いを引き受けていただいたのが就職課でした。

以来3年ものあいだにわたり、事務的なこと、大学側との相談、卒業生からの問い合わせの窓口など、数え上げるとキリがないほどのご支援、ご協力をいただきました。ここまで活動ができたのはそのことの賜物であり、感謝の気持ちで一杯であります。

この6月に大学から同窓会の窓口と

事務局を総務部へ移管するとの通達がありました。会として数度、大学と面談を持ち、善後策を協議しましたが、大学の決定は揺るぎませんでした。我々役員、総務部ともに突然のことであり、いまだ、以前のような事務局の機能、体制には復帰できません。

また、総務部としても現在の大学業務との兼務になり、人的、時間的束縛がある限り、従来のようなご支援は無理と考えます。今後しばらくの間、会員の皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、ご容赦くださいますようお願いいたします。

これを機会に、我々独自運営での事務局設立へ向けて、少しずつ努力してまいりたいと思います。今後、皆さまからのますますのご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。



開学35周年とホームカミンググデー

「ウォー、すごいー360度バノ
ラマヤン。六甲山は見えるし、大
阪湾はもとより、あれ、大阪ド
ム！ウヒヤー阪急園田駅があんな
に小さく見える。新幹線も模型や
ん。もー最高の眺めやな」これ
は、今年の9月に完成された「サ
ピエンチア・タワー」の10階から眺
めたときの私の歓声でした。

この前に開学30周年をしたと思
つたらもう気がつけば、今年が35
周年。私も卒業して今年で7年が
たち、大学に対する思いもますます
す強くなり、卒業してから変わっ
ていく大学を見て、思わず「この
すばらしい眺め、これが我が母校
なのか」と叫びたくなるような歓
喜に自分自身酔いしれる思いです。

同窓生の皆さん、今年は一見の価
値があるかも知れませんよ。なか
か足を運ぶきっかけがない今、この
「サピエンチア・タワー」完成と開学
35周年記念を機にぜひ我が母校の雄
姿をどくとこらんとあれとおすす
めします。

今年の開学35周年記念は、一部、
二部と分け、一部は、「サピエンチ
ア・タワー」の10階部分を使って
催し物と総会をする予定で、そし
て二部は、従来のホームカミング
グデーを食堂で行ない、今回も全
国百貨店共通商品券などが当たる
ビンゴゲームなどを行なう予定です。

まさに開学35周年記念にふさわしい
イベントになるようがんばってま
すので楽しみにしていただければ幸
い입니다。

今年が、35周年。そして気がつけ
ば40周年とあつという間に年月が過
ぎて行くように思います。今、世の
中は激動の時代と言われ、もう教
年がたちます。その一方で、私たち
年を重ね、残りゆくものは思い出
に変わり、そしてまた一方では新しい息
吹が注がれ、新しい時を刻もうと
しています。

私たちが青春時代を過ごした母
校、時代とともに変わっていく大学。
しかし、私たちの心の中には、その
時代を生きた証があります。思い出
があります。

そして、その思いを快く受け入れ
てくれる母校。日常生活の厳し
い中で、母校に足を踏み入れる
ことは、私たちにとって、生き
る活力になり、また新しい息吹
をもたらしてくれる最高の場所
だと、私はそう思うのです。

今回も卒業されて10年目の方
(88年卒業) 20年目の方(78年卒業
30年目の方(68年卒業)に記念品
を用意しています。ホームカミン
ググデー会場受付でお申し付け下
さい。

92年英文卒 前中正彦

ロ・スワルス先生と英知同窓会 退官を祝う会

英知大学で30年間、フランス
語を教えてくださいましたポール・
スクルス先生が来春教壇を去ら
れます。

先生の多年にわたる暖かいご指導
に感謝すると共に、同じ学び舎で青
春を過ごした朋友同士、旧交を暖め
て、楽しいひとときを過ごしましょう。
多くの方々にご出席下さいますようご
案内申し上げます。

●とき 11月3日(火)午後3時より

●ところ 大学学生食堂内

●会費 不要

尚、準備の都合上、ご出席頂
ける方は10月25日までに左記までお
知らせ頂きたくお願い申し上げます。
皆さんのご参加をお待ちして
おります。

■連絡 お問い合わせ先
〒631-0006
奈良市西登美ヶ丘6丁目14-19
TEL&FAX 0742-41-5460

児玉まで



THE EDITOR'S COMMENT



前回の会報でお伝えしました

「教職員との懇親会」と「スポ
ーツ交流会」は残念ながら中止とな
りました。楽しみにされていた
方々も多くいたかと思えます。紙
面を借り、あらためておわび申し
上げます。特に「スポーツ交流会」
は回を重ねる毎に参加者も増え、
盛り上がりを見せていただけに、
ほんとうに惜しまれてなり
ません。

会として6月に月例会会費を
行い、イベントの担当者も法定し、
意気込んでいた矢先の大学からの
中止要請でした。

なぜ中止しなければならぬの
かを問うことよりも、我々役員に
とっては同時に知らされた事務局
異動の方が深刻な問題でした。そ
の後、役員会は幾度となく召集さ
れました。議論を重ねたものの、
事務局をこれからの様に運営し
てゆくのか、これといった結論は
導き出せずに現在に至っています。
けれども、第一報を受けてた
だるるたえるばかりであった役員
たちの顔にも、少しづつ冷静さが

戻りつつあります。

時間はかかるかも知れませんが
が一步一歩前へと進んで行か
ばなりません。我々が前任者か
ら引き継いだ5年前には、やり
遂げなければならぬことが山
のようにあり、遂方にくれたも
のでした。もう一度、振り出し
に戻ったつもりで始めればよい
のです。

幸い、この4年間で会員名簿
も完成しました。今年度は会費
徴収のコンピュータシステムも
完成し、動き始めようとしてい
ます。そして年2回、皆様に会
報という形で会の活動を報告す
ることもできます。確実に会は
発展しつつあります。

ただ、自ら役員会を振り返っ
てみると、役員それぞれが疲労
しつつあることは否めません。
それは人員の不足、そして限ら
れた人間での活動によるマンネ
リ化が原因としてあげられます。

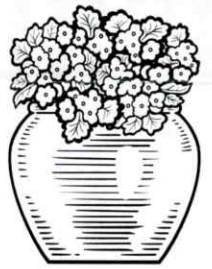
事務局異動という困難に立ち
向かうには体力が不足していま
す。このままでは意思なげに
して空中分解という最悪の事態
にもなりかねません。

今こそ会員皆様の協力が必要
です。お力をお貸しください。
一緒に英知大学同窓会をもち立
てていきたいと思います。

英知大学同窓会 藤本滝三

大月 力

関東支部便り



私たち関東支部では去る6月27日に8回目の支部総会を開催しました。

会員が集まって食事をしながら大学からのゲストに現状を報告頂くのも有意義なのですが、わざわざ大学から出席して頂くのですから今年は一歩踏み込んで、食事会だけでは満足できないという贅沢な希望をお持ちの方にも十分喜んでもらえるよう、ゲストの先生に専門分野の簡単な講演会もやってもらおうと企画しました。

記念すべき第一回として英文科の井上神父に白刃の矢を立て主旨をお話したところ、ご快諾下さいました。会員の方々に案内状を出すときには特に英文科の卒業生には重点的にアプローチする内容にしました。

果して返送されたハガキには「久し振りにお会いできるのを楽しみにしています」とか「お会いしたかったのにできないのが残念です」などとコメントが書いてあり、今回は順調にすべり出した喜びを次号です。

総会当日は井上神父に「親とし

て夫婦として」という題でお話いただきました。本人の満足度を測る方法として「来世があるとして、来世でも今と同じ配偶者と結婚しますか?」など興味深い内容で、あつと言う間に予定時間になってしまいました。

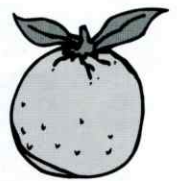
次に支部総会を兼ねた食事会に移ったのですが、去年の出席者の希望で今年もまた「香港園」にお願いしました。皆さん口が肥えていておいしい所がわかるのですね。また、総会には野村会長始め本部より3名出席していただき、去年までと違って、生の報告が聞けて総会らしい雰囲気が高まりました。

今年は大学創立35周年でホームカミングデイでも色々なイベントが企画されているようなので、関東支部としてレポーターを動員して、支部ニュースで皆さんに新鮮な情報を提供したいと思っています。それでは創立35周年の記念行事の成功を祈りつつ筆をおきます。

関東支部 78年 仏文卒

永森孝夫

和歌山グループ 「発足記念講演会」を開催



英知大学和歌山グループが発足して間もないのに、なぜこのようなイベントを実施したかという点、それに大きな理由があったのです。地方にいて、公立の中学校、高等学校で進路指導をしていると、母校『英知大学』の知名度の大変な低さに悲しい思いをする毎日です。

大学の生き残りが難しいと言われている時期だからこそ、英知大学を多くの人に知ってもらいたい。寒川氏（県立田辺高等学校教諭・73年英文卒）はその思いが特に強く、グループを動かしました。

寒川氏は『英語教育』（大修館書店）『現代英語教育』（研究社出版）等の全国版の月刊誌や、朝日新聞をはじめ和歌山県内のマスメディア等に、今回の講演会について積極的に広く呼びかけてくれました。思いが同じ人たちが集まっているわけだから、計画はでき、準備が進むのですが、準備期間やスタッフの少なさ等を考えると、イベントが大きすぎたのではないかと不安が起きてきたのも事実でした。

講師については、寒川氏がEBSの植田二三氏と連絡を取り決定してい

ましたが、どのような人を対象に、また、どれくらいの人を集めが可能かなど、計画が進むにつれ、さまざまな課題が出てきました。そのような思いを消し去ってくれたのは、青年実業家の芝氏（83年西文卒）です。彼は田辺市青年会議所のメンバーとしての経験を生かして、さまざまアイデアを出し、アドバイスをするとともにボランティアを募ってくれました。和歌山県内の公立中・高専学校の先生方には大いに手伝っていただきました。

「母校の宣伝だから、一人でも多くの人に集まってもらいたい」の思いから同窓会の役員の方々には、「100名が目標です」と伝えたので「何て大きな事をいうんだ」と思われたと思いますが、情熱だけは強かったのです。

ところが、準備を進め、講演会の日が近づいてくると、ハッキリと把握している人数は15名程度だったため、当日は30名も集まってくれば幸いと、半ば諦め、その程度の人数分の座席だけ用意していました。

ところが、蓋を開けてみますと、予想を遙かに超える大勢の方が来て

くれました。わざわざ滋賀県からは野村会長、奈良や大阪からも30名近くの参加があり、1500名近くの参加者となりました。

講師の植田二三氏は、『英語を楽しく最短距離で身につける法』という題で、「外国語を習得するために、より大きな目標に向かって努力している人は、謙虚に何年も勉強するので、その目標とする外国語の実力が着実に身に付き、知性も人間性も磨かれていき、またやり甲斐を感じずばらしい人生を歩んでいるので美しく輝いている。これこそ外国語学習の醍醐味である」など3時間余り、情熱を込めて語り、参加者に深い感動を与えてくれました。

講演会後、今回の講演会が盛会に終わることができた喜びを胸に、同窓会和歌山グループの発足の会を開いた「吉四六」で大いに語り合い、時の経つのも忘れてしまうほどでした。和歌山グループは、県内の紀南地方の4名、5名が中心となって活動していますが、今回の講演会を通して「人は宝、宝は人」の感を強くしました。大学を通してこの思いが広がるように希望しています。本年は、英知大学創立35周年の年です。人と人とのつながりで同窓会を盛り上げ、大学発展のために創意工夫し、協力していきましょう。

英文卒 出口 孝